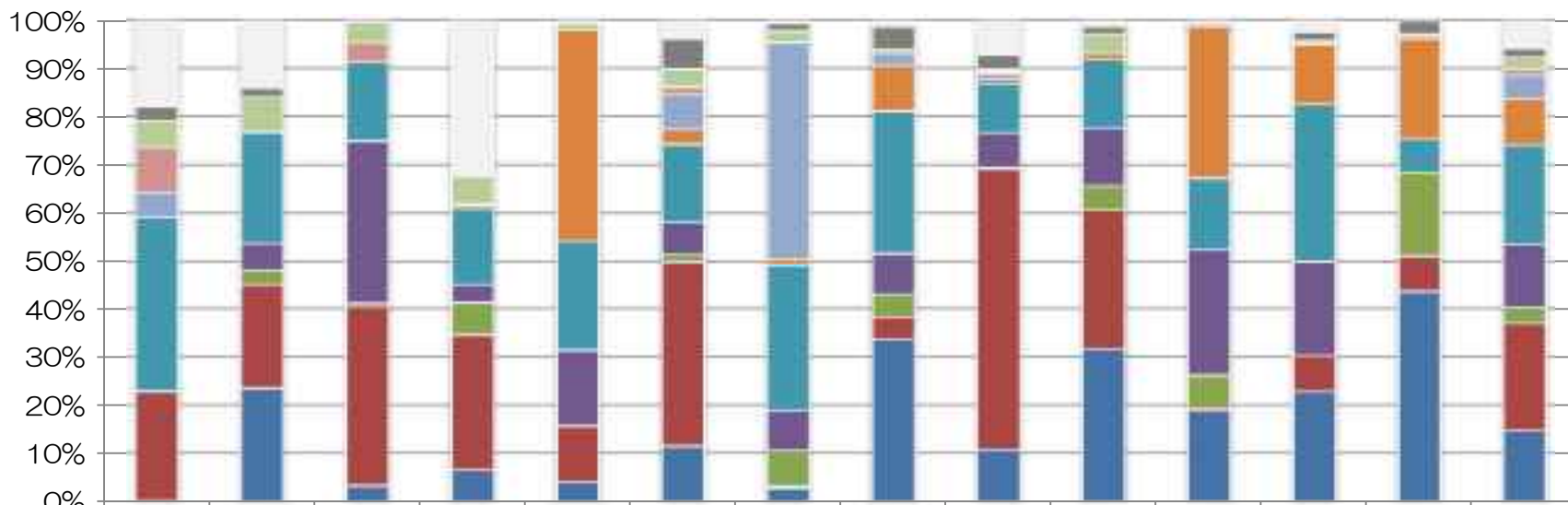




2-2. 原因施設別 食中毒患者数



	昭和29 ~33年	昭和34 ~38年	昭和39 ~43年	昭和44 ~48年	昭和49 ~53年	昭和54 ~58年	昭和59 ~63年	平成元 ~5年	平成6 ~10年	平成11 ~15年	平成16 ~20年	平成21 ~25年	平成26 ~28年	合計
不明	361	335	13	624	14	62	17	26	332	26	16	78	0	1,904
その他	59	43	25	0	0	105	47	99	127	31	20	53	29	638
家庭	110	174	120	110	32	62	67	16	27	84	7	17	2	828
魚介類販売業	188	0	132	0	0	25	0	0	21	0	0	2	8	376
製造業	106	0	0	6	0	121	1,279	53	54	0	3	3	0	1,625
弁当屋	0	0	0	14	1,032	51	42	195	39	24	1,150	388	218	3,153
仕出し屋	732	547	547	307	539	268	863	609	472	293	540	1,010	72	6,799
旅館	3	137	1,127	73	372	111	238	179	327	248	958	612	0	4,385
すし屋	0	70	26	129	0	26	215	95	14	100	249	0	182	1,106
給食	457	513	1,243	542	275	636	8	98	2,690	599	23	235	79	7,398
飲食店	3	560	111	127	95	191	81	697	492	654	689	707	457	4,864

食中毒の患者数が最も多い原因施設は「給食」の7,398人（22.4%）であり、大規模食中毒の影響が大きい。次いで「仕出し屋」6,799人（20.6%）、「飲食店」4,864人（13.5%）の順である。

1事件あたりの患者数は、「製造業」が163人で最も多く、次いで「弁当屋」126人、「給食」119人、「旅館」60人の順に多く、これらの業種は事件が発生すると大規模化しやすいので、特に注意が必要である。逆に喫食者が限られる「家庭」は8人と最も少ない。